

特集
①

国際交流神戸事情

国際ジャパネスク歌舞伎

七月二十二・三日

“鳴神”興行

海野光子

〔カナディアン・アカデミー
日本語部長〕

国際ジャパネスク歌舞伎も今年で三年目を迎えることになった。

“カナディアン歌舞伎”は十一年続いたので馴染みの方も多いが、“ジャパネスク歌舞伎”になってからも“カナディアン歌舞伎”の認識を持っておられる方もある。実際、青い目の外国人たちが歌舞伎をやるには違いないが、この“ジャパネスク歌舞伎”は、カナディアンアカデミーを離れて一人立ちしたものだ。

もともと、カナディアンアカデミーのクラブ活動の一環として、私が日本語教師であることで何か顧問ができるようなものはないかという所から端を発した訳なのだが、やはり学生時代に自分が

演出もし舞台で演じた経験のある歌舞伎をやりた
いと思ったのだ。今は残念なことに、カナディアンでは、クラブの活動はしていないのだが……。

ジャパネスク歌舞伎は、もちろんカナディアンアカデミーの生徒や卒業生、教師などから編成されているが、年齢を制限されないので扱う歌舞伎の幅も広がる。そこで今年も、歌舞伎十八番の内“鳴神”を選んだ。昨年は市川團十郎の襲名披露があり、今年九月には神戸公演が予定されておりその露払いの意味もあつての選目である。

鳴神上人は祈禱所の建立が朝廷に聞き入れられないため法力で竜神を滝壺に封じ込め雨を降らさない様にしてしまった。そこで朝廷は雲の絶間姫という上臈をつかわし色仕掛けで鳴神上人を破戒僧に墮として法力を破ろうとする。絶間姫は素性を偽って夫に死に別れた賤の女と名乗り弟子入りを目指す。さまざまな手練手管を使って、ついに竜神を解き放ち、雨を降らせることができるというあらずじになっているが、やはり見どころは上人が凡夫に墮ちて行く面白さでその変化が楽しい。また雲の絶間姫も高貴の姫君でありながら色香を



ブレイク・クロフォード(上)
ハイジ・S・ターニング(下)



積古風景<中央は演出する海野光子さん>

ふりまくのだが、セクシーな色気も下卑てはいただけでない。本来なら女形の腕の見せどころだがジャパネスク歌舞伎では女性が演じる。その所が本来の歌舞伎と異なるわけだが、男性が女形を演じる場合もある。鳴神上人には、「勸進帳」で富樫を演じたブレイク・クロフォードが、雲の絶間姫には、「助六」で揚巻をやったハイジ・ダーニング(旧姓シュレツファー)がそれぞれ決定している。本格的な稽古は、学校が夏休みに入ってからだが、兩名ともカナディアンから歌舞伎をやっているベテランなので演技も板についている。その上美美女ときているから指導しているこちらの方が思わずうっとりとしてしまう。けれども彼らがここまでの姿を披露してくれるまでには、い

ろいろな困難があったのだ。役作りの上での本人の努力は言うまでもないが国籍も言葉も膚の色も異なる彼らが、歌舞伎のような日本伝統芸術を理解し得たのだから、「人情」は時代と国境を越えて人々の胸の中に共通するものだと思われ、彼らに教えられた。また、人と人との心の通い合いの中にあってこそ教育が生きてくるものであるとも……。

日本人は、学問も芸術も文化も、いろいろなものを外国からとり入れている。年末になれば決まったようにベートーベンの「第九」を演奏し、新劇ではシェイクスピアの「マクベス」もやるし、オペラもバレエも外国ものをやり、そして日本人はそれらのものを理解していると思っっている。なのに外国人が日本のものを学んだり習ったりすると、できる筈はない、義理とか人情とか忠義とかが外国人にわかる筈はないと思いきんだふしがあるが、このような態度からは、本当の国際交流は生まれにくい、人と人との交流もできない。

夢のまた夢かもしれないが、千坪の土地に劇場と宿舍を建て、茶室なども設けて日本の伝統芸術を習いつつ歌舞伎を日本中に上演して回りたい。もちろん国籍・性別を問わず、世界で唯一の歌舞伎団、世界中の人が参加できる劇団としてである。

★スポット★

演目 歌舞伎十八番の内「鳴神」
 日時 七月二十二日(火)夜六時半
 七月二十三日(水)昼一時半・夜六時半
 場所 神戸文化ホール(中ホール)
 料金 1階S席4,000円・A席3,000円
 2階B席2,000円・C席1,000円
 ●前売券発売中 国際ジャパネスク歌舞伎事務局
 電話二一五四〇〇・神戸文化ホール、さんちかタウン
 各ブレイガイド・月刊神戸っ子 三三二二二四六



特集
〔2〕

国際交流神戸事情

神戸製鋼所

メリットの多い

外人社員の活用

大倉 照男

(神戸製鋼所人事本部)



神戸製鋼の外国人社員の採用は一九七五年に開始し、最初は英語教師を採用する事からスタートしました。そのきっかけとなったのは、一九七三年に中近東のカタール国で製鉄プラント・プロジェクトの商談があった時、相手側との交渉を進める中で当社社員の語学力が非常にお粗末だという事がわかり、社員の英語教育を抜本的に見直さなければならぬと痛感したからです。

神戸製鋼は売上げの四割を輸出に頼る輸出依存型の企業で、海外事業所の数は四十四、海外駐在員数は四六〇人、年間の海外出張者数は六千人にも及んでおります。こういう状況の中で、社員の

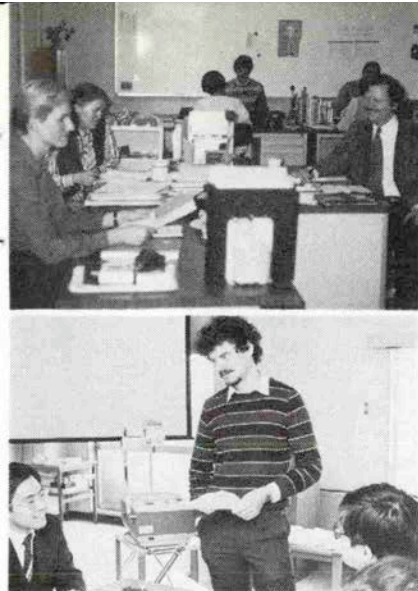
国際化教育が今後ますます重要となって来ており、その中心を為すのがやはり英語教育という事になるかと思えます。

外国人教師を社員として採用した場合のメリットとして、社員であればこそ、教師が社内各部門の事業活動内容を把握し、各部門の業務及び英語のニーズの実態に則したカリキュラムの開発が行えますし、クラスの外でも日常的に彼らと接触できる訳で、このメリットは非常に大きいと思えます。

やがて当初採用した英語教師達の中から、生徒が英語の問題で相談を持ちかけたビジネスの内容そのものに興味を持ち、実際にそのビジネスをやってみたいという者があらわれました。そこで実際に異動させてやらせてみると、予想外にうまく日本人の中に融け込み、本人の英語の能力をフルに生かして、重要な機能を果しました。そこで、我々は「発想の転換」を行い、それ以降、直接ビジネス部門でも外国人を採用するようになりました。

我々、日本人が海外に出て仕事をする場合、物

写真は、英語教師として活躍する外国人社員





神戸製鋼所では、20名の外国人社員がビジネス部門で活躍している。

の考え方、価値観、メンタリティー、表現方法の違いなどからとかくトラブルに遭遇し、仕事がスムーズに行かなかつたりする訳ですが、外国人社員達と共に机を並べて仕事し、彼らとの日常的な交流を通じて、我々自身の国際化が図られるのではないかと考えた訳です。

外国人採用のメリットを考えると、まず、日本人にとかくありがちな外国人アレルギーがなくなりました。又、彼らの物の考え方、価値観、メンタリティーも理解できるようになりました。更に英語の言語がそうでありますように、彼らと接する中で日本人特有のあいまいさが許されない為、我々が自分の言動に責任を持つようになって来たことも大きな効果の一つに挙げられます。

外国人採用の方法としては、定期採用は行っておりませんが、彼らの方から直接応募があり、その数は年間五十〜六十件にも達しております。その中で我々の求める資質のある人がおれば、面接をして採用しております。

勤続年数の長い者は十年が一名、九年が二名、八年が二名おり、年齢は二十三歳から四十五歳ぐらいまで、女性は英語教師に三名おります。今年五月末現在で外国人社員の総数は三十一名、そのうち英語教師が十一名、ビジネス部門が二十名です。国籍別にみますと、アメリカ人十七名、イギリス人八名、カナダ一名、ニュージーランド一名、チリー一名、エジプト一名、タイ一名、シンガポール一名となっております。

今後は、日本での勤務経験者を逆に海外事業所に派遣して、現地でのマネジメントをやってもらおうとも考えております。

外国人社員の採用以外に、海外からの研修生の受入れも行っております。海外のプロジェクトの技術者であります技能研修生は中近東、アフリカヨーロッパから年間約百名受入れております。又、学生の研修生は年間二十名位で、社内の研究所、事務所でトレーニングを受けています。この場合「ブラザーシステム」という方法を採用し、当社の若手社員にマンツーマンで研修生の指導に当らせております。

日本の企業は一般的に外国人の採用に食わず嫌い臆病なところがありますが、当社のようにうまく行っている例もある訳ですし、ぜひ思い切った試みてみられることをお勧めしたいと思います。

特集
〈3〉

国際交流神戸事情



クロスカルチュラルセンター 草の根国際交流 の輪を広げよう

住野 和子
(神戸YMCAクロスカルチュラルセンター
プログラムディレクター)



私はこの十六年間、神戸YMCAで日本語を教えています。その前の十年間はオーストラリア住まいでした。「神戸YMCAクロスカルチュラルセンター」の発足は一九八〇年三月ですが、この十年間の経験が生きていると思っています。つまりマンツーマンのつき合いです。

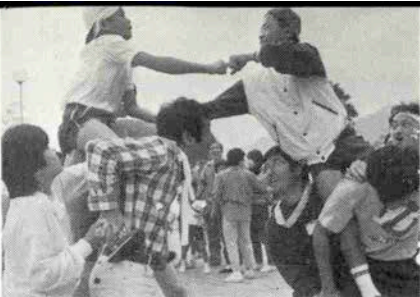
私は、その地域に住んでいる外国人と、市民レベルでの交流によって、お互いの理解と友情を深めることが何よりも大切だと考えます。勿論、国レベル、あるいは学者や経済人による交流も必要です。しかし、身近かにいる外国人とのつき合いによって、その国を理解し、友情を育てること

は、より強いきずなが生まれたいと思います。

ところが実際には、交流のチャンスがあまりない。そこで、日本人と外国人との交流のきっかけをつくりたいということで「神戸YMCAクロスカルチュラルセンター」をスタートさせました。

プログラムの二本の柱として、身近な交流の場を図ること、そして異文化理解を助けるものを用意しています。料理教室や外国人と日本人父兄の交換学校見学、バスツアー、そして最大の年間行事として「神戸市長杯」バイリンガル・スピーチコンテスト」等々。今年で七年目を迎えるわけですが、いずれの企画も好評を得ており、外国の人のみならず日本人も新鮮な驚きと関心をもたれているようです。ですがその裏にはプログラムを全て日英のバイリンガルにするなどのきめ細かな配慮が組みこまれていきます。このような活動が徐々に地域からも評価されるようになり、中内育英会やインターナショナル・コミッティ・オブ・カンサイからは国際親善に貢献したとして表彰していた

だくようにもなりました。さらに三年前から始まった「留学生ホストファ



上・留学生とホストファミリー運動会
下・外人講師による料理教室

ミリープログラム」。兵庫県には約三〇〇人の留学生がいますが、その内約二五〇人が神戸市内に住み、半数以上がアジア及び開発途上国から来た学生です。私たち日本人は青い眼の外人に対しては非常に低姿勢で接しますが、他のアジアなどの人々には随分対応が違うようです。ところが日本に留学しているアジアの学生たちは、優秀な人が多く私自身も多くのことを学ばされました。これからの私たちの「かけがえのない地球」(Only One Earth)を存続させるためにも、私たちは先づ、身近の、そして将来の国際交流の基盤となるであろう各国の留学生達と協働して行くことから始めなければならないのではないのでしょうか。一年二回、春と秋に対面式を行っていますが「一



なごやかに行われるホストファミリーと留学生の対面式

ホストファミリー対一留学生」を前提に現在までに二六二組をまとめています。その型式は、留学生を寄宿させるホームステイではなく、折にふれ家庭に招くホーム・ビジットであることを原則としています。これは異なる文化をもつ人々の交流は息の長い交際を経てこそ実るものであるという信条に基づき、より広い層への家族を対象にしたという考えがあるためです。留学生にとっても勉学の合間に我が家へ立ち寄るようなくつろぎの場をもつ方が心理的負担も軽いのではないでしょうか。敢て「里親制度」という名をとらなかつたのも、対等の人間同志のつきあいをしていく上で親という名を強制してはいけないと考えたわけです。

これら二本の活動を通じて本当に真摯に日本を理解しようとしている外国人にとって、今の日本や日本人の生活をじかに接することがいかに大切かを、ひしひしと感じています。いずれも地域に還元される仕事ではありませんが、縁の下の力もちとしてボランティアの方々の献身的な活動の上になりたっています。今後はこの輪をさらに広げて利害を度外視した、草の根の国際交流を町ぐるみで応援していただきたいと考えています。個人、個人、あるいはひとつの団体ができることはわずかですが、みんなが協力しあえば大きなものとなると信じています。

★スポット

9月15日(祝)、30日(火)、10月13日(月)、カナディア
ンアカデミー、葦合高校交換見学及びパネルディスカ
ッション

10月19日(日) 第8回対面式

11月23日(日) 第7回神戸市長杯スピーチコンテスト

特集
④

国際交流神戸事情

北野国際まつり

心の満足感を

次世に伝える

佐藤 直邦

(北野天満神社宮司)



今では、北野の街の名も日本全国のみならず世界中に広く知れ渡り、北野の地を訪れる人々も年々多くなってきました。

それにともない、町の様相も随分と変わり、活気溢れる観光地となりました。

しかし、北野の街を訪れる人が増えても、北野の町名が、実はこの北野天満宮の名からつけられたことを知る人は少ないようです。

元々、北野天満宮は、平清盛が一時兵庫の福原に都を移した時、京都の北野天満宮の御分霊を迎えたのが起源となっています。ですから、中世近

世を経て、八百年余りに渡って、御鎮座されていることになりました。

その八百年余りの歴史の中で、神戸の街は、海外への日本の門としての発達を遂げ、外国の人々も多く移りすむようになりました。

特に、この北野の街は山手にあり、風光明媚なために外国の人々に好まれ、異人館がいくつも建てられることになったのです。

外国の人の中には、各自の宗教とは別に、移り住んだ土地の宗教に関心を持つ人も多くいます。

そのような人々が、この北野天満宮の氏子になり、青い目の子供の七五三詣や、初宮詣。また、家の新築に当たっての地鎮祭等が行われるようになりました。

このように、日常が国際的な神社ですので、夏祭りも外国人とか日本人とか言うのではなく、国際人の集いの祭りとして、広く開放している所です。

そもそも、この祭りの始まりはペルシャ美術研究家であるJ・グラック氏。そして、北野の観光に力を注いでおられる三浦明定氏等が、国籍や宗



国際みこしが北野の町を行く



世界の子供たちが、一緒になってワッショイ、ワッショイ

教やイデオロギー等の境界を越えて、それぞれの国の芸術や文化を理解し、世界の平和を祈る祭りを創ろうではないか、との話からだっただけです。毎年七月二十五日の夏の天神祭の後の土曜日、日曜日を「北野国際まつり」と名付けました。その「北野国際まつり」も、はや六年目を迎えるようになっています。この間に御奉仕下さった方々は、千数百人にのぼり、誠に有難いことです。北野国際まつりの特色と言えば、まず世界各国の民族舞踊、民謡、世界のグルメやバザールがあげられ、見た目には楽しく華やかに映ると思えます。しかし、この祭りの根底には、宗派を越えて世界の平和と仲間へ愛の表現としてのチャリティと言うテーマがあり、こちらの特色にも関心を持って下さる様に御願います。

また、境内も年々、参加者が増え、手狭になっ

てきましたので、今年は北野国際パレードと銘打って、異人坂をメインストリートとして、世界の子供達が一緒になって担ぐ、フレンドシップみこしや、プラスバンドや、サンバ愛好家の踊り等を行う予定にしています。夏の坂道を、青い目の子供も、黒い目の子供も入り乱れて、汗にまみれて行進する、楽しい祭りになることでしょう。

この祭りに参加した人々が、永久にこの祭りのことを忘れず、ホスピタリティあふれる人間としての、心の満足感を次世に伝えて行くような祭りになるでしょう。

この祭りを通じて、ふれあい、理解しあい、助けあう友情の輪が広がって、世界の平和につながって行って欲しいと願っています。

今や日本は、世界中から働き過ぎである。貯金を持ち過ぎである。仕事を止めなさい。金を使いなさい。と言うようなことを言われています。それならば休日を「愛ある日」と定めて、世界平和の核としての我が家を見つめ直すようにすれば良いと思います。そうすれば、近隣を愛し、人の為、地球の為に心を痛め、時間を惜しまず奉仕出来ることを喜びとする人が育つことでしょう。

願わくば、北野国際まつりばかりでなく、日本の各地に、この様な祭りが広がって行って欲しい。そして、それが世界の八百万の大神の御心に添えることと確信しています。そのため、本年は基より永久に努力いたします。

北野国際まつりは、参加の資格は一切問いませんので、一人でも多くの御賛同を頂き、清く明るく正しい地球を創るため、奉仕のスタッフとして御参加下さる様に伏してお願ひ申し上げます。

特集
〔5〕



国際交流神戸事情

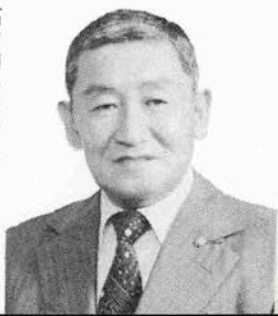
神戸国際まつり

新開国元年

グローバルイズム

国民運動 田嶋 克己

〔神戸輸入促進
フオーラム理事長〕



「世界の夢は神戸から」の旗印を掲げて、市民ぐるみの輸入拡大促進と国際文化交流の相乗活動を以て、日本の国際化の先導的都市として世界の人々との友情と信頼を築こうと、過去10年に渡って実践してきました。

その活動は、心が心呼び合い、ボランティアの方々の、1年毎の輪の広がりを生みだし、各団体・各企業の御協力を戴き、『神戸国際まつり』として実を結んだのです。

毎年3月に、在神の世界各国の人々と共に、それぞれの民族文化を交流し、神戸に所在する世界・日本の各宗教の教会・寺院の聖職者の方々と共に、「世界の人々の平和・幸福を祈る」催しが『神戸国際まつり』です。

その主旨は、世界の国家・民族のそれぞれの文化の底に流れる、先祖から伝わる宗教或は宗教的な民族の心と、その心の自立する尊厳をお互いに尊重し合い和合する社会造りの上に、科学・技術・経済面における創造と交流の努力が融合されることです。

その時、世界の理想たるべき「平和な新しい世界文明の創造に挑戦する国際都市・神戸」としての躍動があると信じて、努力しています。

人類の未来歴史の創造への挑戦である、かかる世界の理想を掲げて、それを日本の理想たらしめること、そして世界の各地でも、かかる理想の掲げられることを願うことで、世界の人々と世界観を共有することが、国民の意識改革につながると思います。

それが世界の自由貿易体制の堅持の提唱となり、我が国の市場開放・輸入促進により国際市場に組み入れられた国際的な産業構造と、より内容のある国民生活への自己改革となるのです。
宇宙・大自然のルールと調和は神仏の知恵です。



第10回MIRA国際会議 (1986年5月9日)

人間の細胞を始め、全ての生命は、自己の運動をしながら全体との調和を保ち、他の生命との連帯によって、自己の生命が生かされて居ると言うことであり、これは大自然の真理なのです。科学・技術の創造と経済活動が世界のトップになろうとするならば、心の知恵の進歩も世界のトップとならねばなりません。それは神仏の知恵、或は大自然の目に見えない偉大な力の知恵によって、この宇宙の法則を人間社会の調和とする心となることです。



日本・世界の各宗教の聖職者が勢ぞろいする

かかる願いは、去る3月7日の『第5回神戸国際まつり'86』に於いて、新しい目的として、『新開国元年・グローバリズム国民運動』を神戸から起こし、全国に向かって呼び掛けることを参加者の数百名が、拍手を以って決議したのです。私共の、神戸で掲げる理想・活動と全く同じ理想と運動が、既に一九三〇年にフランク・ブックマン博士によって創始され、世界的な運動となって来ています。

それらの活動は、戦前は勿論、戦後も、日本の多くの指導者の方々によって行われ、今日に至っています。

そして、毎年世界各国から、MRA運動の方々が数十名来日され、神戸へも来訪されています。従って、神戸では私共がお世話させて頂き、MRAの運動が神戸でも復活させるべく努力しています。

●神戸輸入促進フォーラム

KOBE IMPORT PROMOTION FORUM

本部 神戸大学経済学部貿易政策研究室
事務局 神戸輸入品卸売センター(田嶋ビル)6F

TEL(078)2511223375

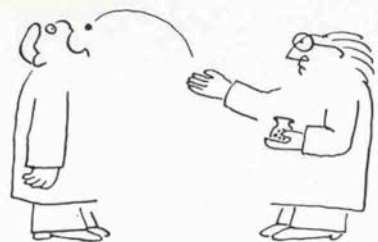
旗 印

世界の夢は神戸から

経済文化の国際交流の促進に努力し、
世界の人々との
相互理解の一助となり、
“世界は一つ”の心を
お互に育てましょう。

地域社会の生活文化の向上に尽くし、
その中から歴史に培われた
美しい精神文化の活力を絶らし、
その躍動の波を神戸から
起こしましょう。

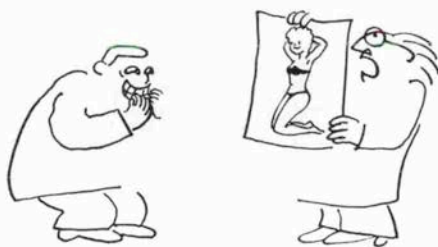
心豊かな喜びの平和世界を顕現する
型なる理想を理念として、
心を磨き、叡智を集め、
まことを尽くして励みましょう。



この薬を のめ

1

ほしい?



ほしいか?

2

ほしい?



ほしいか?

3



右のほおを うつと……

4

右のほおを うちかえす



5

さっきのは
なんの薬だったんで



完全な 失敗じゃ……



6



……

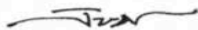
7



聖人君子になる薬じゃ



8



経済ポケット ジャーナル



★新神戸駅前で鉄入れ式
新神戸駅前の神戸セントラル開発ビル(仮称)の地鎮祭が5月16日、現地で行された。



鉄入れを行う中内社長
63年秋完成予定のこのビルは全60室(定員200名)のホテルなど諸施設を含む高層ビルとなる

当日は、㈱神戸セントラル開発の中内功社長、宮崎市長ら250人が出席。

このビルと、メリケンパークのホテルオークラの完成で、神戸のホテル競争もいよいよ佳境入り。

★ダイエー2代目、

いよいよ専務に

ダイエー株式会社(大阪府吹田市)の新専務取締役中内潤氏が就任した。

潤氏は、昭和三〇年生ま

れで、慶応義塾大学大学院経営管理研究科を卒業後、昭和五十五年ダイエー㈱に入社、関係会社である朝日クレジット㈱、㈱丸興を経て五十九年より取締役に就任。この度の人事は、五



中内 潤氏 月二十日
取締役に専

務取締役として正式決定されたもので、父上である現会長兼社長、中内功氏の後継者として今後の活躍が期待される。

★カーファンにご満足

オートラマがR43沿いに米国フォード社の日本での販売会社・オートラマに参入し、㈱オートラマ・ジェム(米田利勝社長)が魚崎の国道43号線沿いに、店をオープンした。

オートラマの新車・中古車・カーグッズ・ファッショングッズの他、メカニッ

クサービス・情報サービスまでうけられるトータルリゾートセンター。



米田社長を囲みテープカット
22日、5月
阪神ター
イガー
スの選
手も出
席する

中、オープニングの式も盛大に挙行された。

ドライブがてらにぜひ立ち寄りたてのお店。

■オートラマ甲南店 神戸市東灘区魚崎南町6番45213224

★総合住宅展示場、

メリケンパークに大移動
ポトアイランドにある総合住宅展示場が5月末をもって閉められ、新たに7月19日、メリケンパークにオープンすることになった。

来春オープンするメリケンパークの北側の約7300㎡の敷地に17社の出展メーカー、18軒の家が建ち並び総合住宅展示場。

7月19日正午より一般公開される。尚、7月19日、8月10日までオープニング



オープンに向けて建設中
キヤン
ベイン
として
イベン
トが組
まれて
いる。

主催/神戸新聞社

■主催/神戸新聞社
■出展メーカー/旭化成ヘルパウス・三井ホーム・国土ビーコン・小堀住研・小堀住研ハウス55・殖産住宅・住友林業ホーム・セキスイハウス・セキスイハイム・大成パルコン・トヨタホーム・ナショナル住宅・ナショナルハウス55・野村不動産・ミサワホーム・近鉄不動産・クボタハウス
■お問い合わせ ハウジング事務局
電話 251-5275まで

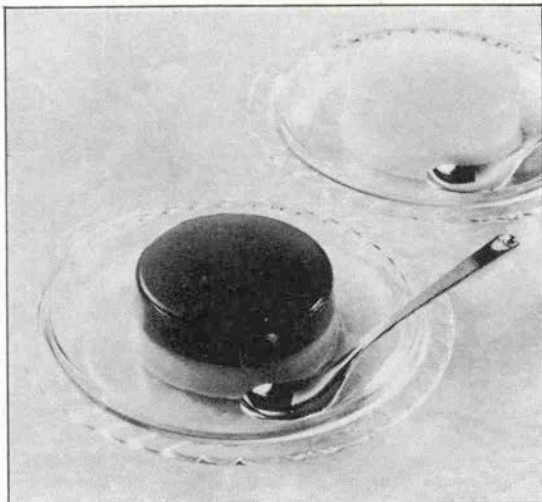
★KOBEOフェイスレディ★

中村 夏織さん (21)

神戸オールスタイル(株) 総務部勤務



レディースファッションの神戸オールスタイルに入社2年目。接客案内、電話応対と受付の業務をこなす。生まれも育ちも神戸の良さと明るさが好評。あこがれていた業界だけに、今の仕事を続けていきたいと言う。油絵が趣味、現在は社内の同好会でデニスセールの人がかりに声をかけられて...と多少不満気。かに座、B型のお嬢さん。灘区在住。



ちょっと優雅に、アイネパウゼ

ラズベリー&ヨーグルト
 パッション&ヨーグルト
 コーヒー&ババロア

美しく優しく調和した2つの味、2つの色…。
 ファンタジックな気分を誘う、ちょっと小粋な
 二重奏。上品で繊細なハーモニーを奏でます。



ユ-ハイム

クールに夏を装いますか
 ホットに夏へ飛び込みますか。



キャリアが光るシティグラス
 HOYAサンウェア



女は、視線で装う。
 光のオトクチュール。

 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
 三宮店・さんちかローザアベニュー ☎(391)1874~5

阪神間の大学連合による

国際文化交流の推進を

△座談会出席者▽

新野 幸次郎 △神戸大学学長▽

後藤 幸男 △神戸商科大学学長▽

武田 建 △関西学院大学学長▽

山口 光朔 △神戸女学院大学学長▽

森 恒夫 △甲南大学学長▽

国際港都神戸を支える人材を輩出した大学群

——今回は阪神間の人間形成、文化形成と最もかわりの深い大学の学長の皆さんにお集まりいただき、神戸の文化づくり、人間づくりにどう寄与して来られたのかお話しただきたいと思ひます。特に最近、国際化の時代といわれ、各大学とも国際交流に取り組んでおられると思ひますので、そういう観点からまず各大学の歩みをふり返りながら、特色とビジョンを伺いたいと思ひます。

新野 神戸大学の場合は、明治三十五年に神戸高商ができてからの歴史で、国際港都神戸にふさわしい産業の担い手を生み出すのが目的でした。生まれた時から国際交流を意識してスタートしたわけです。昭和四年に神戸商業大学にかわり貿易の担い手になることを核にした教育が始まりました。戦後昭和二十年に新制大学になりました

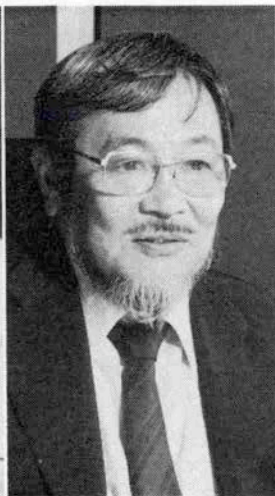
たが、神戸大学の一番大きな特長は国際交流にあるといつても許されると思ひます。それは例えば、経済、経営、法学各部などにおいて、日本の総合大学の中で一番、国際貿易とか外国経済論の講座が多いとか、医学研究国際センターが今年から恒久組織になり、いろいろな形で交流をやっているとかいうことからもおわかりいただけると思ひます。

山口 神戸女学院は一八七三年（明治六年）宣教師エライザ・タルカットとジュリア・ダッドレー両女史が花隈村に私塾をつくり、正式には一八七五年（明治八年）山本通りにできた「神戸ホーム」を開学の始めにしています。アメリカの宣教師によってつくられたということが神戸っ子的性格・神戸文化の分身的存在であるといえると思ひます。

モデルにしているのはアメリカの小さなカレッジで、



森 恒夫さん



山口 光翔さん



武田 建さん



後藤 幸男さん



新野幸次郎さん

リベラルアーツ的なものを中心とした学校です。これがキリスト教的であることに加えて国際的な性格が自ずからあったということになるでしょう。

後藤 神戸商科大学は昭和四年神戸商業大学ができて、それまでの神戸高商が大学になりましたので、その後県立の高商として出発しました。神戸高商の血を受け継ぎ国際都市神戸にふさわしい教育をするという方向で進んできました。戦後昭和二十三年新制大学になり、昭和五十五年国際商学科を設けました。新制大学ではすぐ実務に間に合う教育がなされていないのが普通で、経済のことは知っていても英語が話せない、書けない、聞けないという具合の悪い点が出てきたし、逆に外大を出た人は英語で話ができるが経済の方では必ずしも十分な教育がされていないので、国際的学科をつくらうということになりました。定員八十名で、語学にも、経済にも、貿易実務にも強い人間をつくり国際交流にも十分に対応しようとしています。

大学同士の国際交流としては、米ワシントン州のエバグリーン大学とか、中国広東省の暨南大学と提携し、かなり早くから国際交流をしてきました。

森 甲南大学は、大正十二年に旧制甲南高校としてつくられました。人間性豊かな人材をという主旨から、徳育、体育、知育の三つを建学の精神としております。昭和二十六年には新制大学になり、文・理・経済・経営・法学の五学部になりました。

ただ、国際交流の積極性ということでは、他大学に比べてたち遅れていると思います。それでも十年前、イリノイ大学と提携して、甲南イリノイプログラムを進めつつあります。毎年こちらから行くのが約三十名、受け入れるのも約三十名で、むこうへ行くのは六月から八月の五十五日くらいです。

他に客員教授制度もあり、今後も国際交流を推進して行かないといけないと考えているのですが、ただ、イリノイ大学だけに限ると狭いので、もっと広げてみたらど

うだろうということ、ヨーロッパ・アジア・アメリカから一大学を選び、教員のみならず職員も含めて、若干海外研修を含めた交流をやたらどうだろうと提案してあります。大学として組織的な国際交流をやっていききたいですね。

武田 関西学院は一八八九年(明治二十三年)「キリスト教主義による青年の教育」をめざして、アメリカの南メソジスト監督教会の宣教師ウォルター・ラッセル・ランパスによって神戸に創設され、明治四十三年、カナダのメソジスト教会が経営に参加しカナダとの交流の基礎ができました。

昭和七年大学に昇格し、戦争中の受難の時代をのりこえて、昭和二十三年には新制大学が誕生、総合大学として発展してきました。

海外交流に関しては、アメリカの南メソジスト大学、カナダのビクトリア大学とトロント大学、インドネシアのサティヤワチャナ大学、中国の吉林大学と提携を結んでいます。南メソジスト大学で取得した単位は一部本学で履修単位として認定され、授業料は本学に納入した学費でまかなわれるのが特色です。

大学にも必要な「全方位外交」

新野 都市を活性化するために大学とか専門学校をつくと、いろんな専門の先生や学生が集まり、独自の、自由な活動をする中で、商店活動、経済活動が広がっていくという経済効果が出て来ますね。

山口 ジャンクションカルチャーといいますが、いろいろな所から学生が来ることによって、地方と都会、外国と日本が神戸で融合し、そこから新たな文化を発信していくというところに神戸の面目がありますね。神戸女学院もまさにそれがいえると思います。

新野 神戸経済同友会や神戸商工会議所、あるいは日経産業懇話会などのメンバーの中にも、関学、甲南、神大、商大のOBが多勢おられ、神戸の経済界の担い手として

これらの大学が大きな役割を果たしていることがわかりますね。県庁や阪神地域の各市役所でも卒業生が巾広く活躍しているといえます。

後藤 確かにそれは言えますね。それに神戸は貿易港としては日本一。いろんな国の人が住んでいますので、雑多な国際文化が入っていて、大学もそういうものと融合しながら展開してきていますね。

森 「雑多」というのは痛感しますね。戦後アメリカ依存が高いといわれますが、たとえば甲南大学のある岡本周辺は、ドイツ・フランス・中国といろいろな外国文化が混在し、自然に吸収されて日常生活にとけこんで、異和感がありません。改めて国際交流といわなくても自然と世界の流れの中で生活をしているといえるのではないのでしょうか。

最近、中国やアジアの国々をもう少し大事にしたらとかわれています。しかし出かける分にはいいけれど、受け入れる方がふえて我々の施設や資金では追いつかなくなる恐れがありますね。むこうからの需要が多すぎるんですよ。

武田 住居の問題とかがあり、無制限に呼ぶわけにはいきませんね。しかし、国を特定せず、どの国からでも自由に呼ぶというのも現在はまだプログラム化されていないですが、今後大いに考えないといけないことですね。後藤 我々も、全方位交流をうち出しているんですが……新野 外交で聞いたことがありますね(笑)。

武田 ただ、海外から教授を呼ぶ場合、引き受けた学部誰かが親しくせわをしないとうまくいきませんね。アメリカ、カナダは友人を家庭に招待する習慣がありますので、私の家にはしょっちゅう外国人が出入りしています。

学生側の問題としては、提携校に行った場合は単位が認定されますが、それ以外の大学へ行った場合はされなんでしょう。たとえば、関学大、関大、同志社大、立命館大のいわゆる「関関同立」では、単位の交換があります。

す。そういうことを海外の大学でやってもいいんじゃないかという気がしますね。大変だという意見もありますね。各大学の選択権、決定権の問題ですね。

新野 留学生の受け入れは、アメリカが三十六万五千人フランスが十二万人、日本が一人なので、日本がなんとかしなければならぬのは確かですね。

中国は交流協定を望んでいます。協定を結んだから国が予算をつけるというわけではなく、費用分担が大変ですね。民間の力を含めて本格的に外国人留学生の受け入れの費用の捻出ができないと国際交流はできないというのが実情ですね。

後藤 費用だけでなくこちらでできるものとできないものの区別をはっきりさせておかないと、生活習慣の相異から困ることがありますね。たとえば留学生がアパートを借りようと思っても、外国人お断りとやられると、反日感情を植えつける一因となります。日本では当たり前の権利金・敷金ということも、どう説明してもわかりません。もっと自由な受け入れ体制を、まず住宅から始めてもらいたいですね。

住宅の問題でいえば、四年後には研究学園都市に、私もを入れて五大学がそろうので、共同で留学生施設をつくらうという話も出ています。

山口 新しい展望ですね。

森 専任の方の宿舎は、国立の場合はどうですか。

新野 大変ですね。ただ語学教師として国が採用するケースでは、住宅費のうち最高七万五千円まで出してくれています。

山口 その点は神戸女学院が一番面倒見がいいかも分りませんね。住宅を含めてほとんどのお世話をしていきます。身分も日本人とまったく対等で、組合にも入っておりますよ。

個別大学の垣根を払った国際交流の推進を

新野 市では、先に神戸アジアセンターを設立しました

が、ポートアイランドの住宅を借り上げて、一万五千円で留学生が住めるような方策を考えておられるようですね。ユニークなものでこれが具体化していくとありがたいですね。

また財団法人木下記念事業団が、アジアの留学生用にバス・トイレつきの立派な住宅を加納町に二十室つくりました。市はアジアの留学生十名に八万円出し、婦人団体協議会が二名に八万円出しています。地域でこういう取り組みをやっている都市は全国でも珍しいですね。留学生の生活改善への気運は、神戸青年会議所とか、神戸同友会とかを通じても出されています。ありがたいことです。

一方留学生側に立ってみると、日本では学位を簡単にもらえないというのが問題ですね。外国では学位というのは、独立して研究していけるという能力の証明で、これがないと自国へ帰っても研究者として認めてもらえません。これをどう克服していくかが問題ですね。

それと、カリキュラムをつめて、これだけ勉強したと自信をもって言えるような勉強のさせ方を、特に文化系、社会科学系でやっつけていかないとイケませんね。

後藤 しかし、実際問題として、修士論文を見ても日本語がきちんと書けていない。学位以前の問題がいろいろとあります。日本語の習得をどうするか、一番大きな問題でしょうね。

新野 国では国費留学生の場合、必ず半年は日本語の教育をやっています。こういう作業を経ないで学部へ回したら、十分に理解できず、逆に反日感情を抱かせてしまう結果にならないとも限りません。

山口 私どもの大学でも留学生の日本語教育には悩んでいますね。だから門戸を狭くして少人数に求めてもらうというのが現状です。

新野 外国人教師の場合、ほとんどが語学専門の教師というの問題がありますね。

山口 女学院の場合は、語学だけでなく、音楽の先生も

いらっしやいます。

新野 語学以外の専門領域で教授を招いて授業してもらわないと、大学の国際化は進まないでしょうね。

武田 関学には「総合コース」といって学部の中核をとり払い、各学部の教員が連携をとりながら主題にたち向かうコースがあり、海外からの客員教授もその中に入っています。

その他に、海外の著名文化人、学者を講師に招き、三日～四日にわたり内外で講演やセミナーを開く「ランパス記念講座」や、教員と学生が国際問題などをテーマに、討論、報告などすべて英語で行う「インターナショナルセミナー」、客員教授や外国人講師を招いて気軽に語り合う「コーヒアワー」などがあります。

新野 学外での国際交流では、汎太平洋フォーラムが昭和五十八年からスタートし、兵庫県下九大学の学長に顧問になっていただき、毎月、あるいは隔月に例会を開く他一般向けのシンポジウムや、中・高生にもわかるような講演会を三回行って来ました。昨年は、海外の大学から学長を招いて、汎太平洋学長フォーラムを開催し、太平洋時代の学術交流のあり方の議論をしました。これには文部省も注目したようです。兵庫県以外では、この種の動きはありません。

山口 女学院では、国際的に女性問題とも取り組んでいます。アジアのキリスト教関係の女子大の連盟があります。アジアのキリスト教関係の女子大の連盟があります。去年から女性学の国際交流が始まり、それに関連して、今年三月にポートアイランドで行われた朝日新聞社主催の世界女子学生会議のお世話もしました。今後はこういう問題も大学レベルでの国際交流の一貫として、積極的に取り組んでいかないとだめですね。

新野 これからの学術研究面での国際交流は、単に施設をつくるというのではなく、テーマごとにプロジェクトを組んで成果を発表して行く、また、テーマ自体をかえてどんな分野を広げて行くというのが新しいやり方じゃないかと思います。

山口 国のレベルをこえた、インターナショナルな、ユニバーサルな共通の問題に取り組む時期に来ていますね
新野 ハワイにイースト・ウエストセンターがあります。二十一世紀の問題は南北問題なので、神戸で、ノース・サウスセンターを設立したいですね。

山口 文字通りジャンクションになりますよ。

森 留学生受け入れの話に戻りますが、施設、資金、語学の問題は、各大学が単独でやったらコストが高つくので、国・公・私立の枠をはずして、各大学で協力してやることを提唱したいですね。

新野 大学の協力ということでは、各大学の公開講座を神戸市内の一箇所に集めてやったら年中講義をやっていると思いますよ。テーマはいつでも変えられるし、留学生のための語学教育のコースもできるし、留学生が講師になった講座もやれます。

後藤 生涯教育の一つにもなりますね。

山口 一方では大学間で自由に講義が開けるというシステムも欲しいですね。この科目はこの大学に行けば聞けるとかね。

後藤 連合公開大学とでもいうべきものですね。

これからの国際交流ということでは、個々の大学がやるうとしても各大学のキャパシティの問題があるし、限界に近ずきつつあると思います。どこかで音頭をとってもらって、総合化・グローバル化にもって行ってほしいと思います。

森 各大学の特長は、他の面では十分に任せますが、国際交流については考え直した方がいいんじゃないかと思えます。仮に特色を出そうとしてもロスが多くて効果が上がらそうもないので、大学がお互いに障壁をつくらないで、共同化、総合化して、複数の大学でタイアップしてやる国際交流が本筋にならないといけませんね。

山口 たとえば留学生の日本語の語学教育は外大にまかせるとか。そのための協力的体制・情報交換を出来るだけ早く実現したいものですね。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町6-3-2
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

